

編原島

旧島原藩町年寄
(古町別当)
中村家屋敷跡



ちぢね道唯一の井戸が今も残っており龍馬らが喉の渇きを癒したと言われている。

ちぢね道唯一の井戸が今も残っており龍馬らが喉の渇きを癒したと言われている。

A photograph of a traditional Japanese building, likely a residence or a small shop, featuring a dark tiled roof and white walls. A wooden fence with a lattice pattern is in the foreground, and a flowering tree is visible on the left. The building is situated on a paved area, and other buildings are visible in the background.

『海舟日記』から抜粋

夜に熊本を出港し、翌朝に島原に到着した。

A small, light-colored boat with a green stripe is moored in a harbor. The boat is positioned next to a high, rustic stone wall. In the background, there are buildings and a mountain range under a clear sky.

その当時、ここには船番所があり、そこを通り長崎へ向け旅立った。

元治元年(1864)二月
二十一日
新町出立、馬にて高橋宿に到る。同所より乗船。
此夜、島原へ渡る。此地、小川あり。小船にて川口へ下る。半里。
二十一日
払拂、島原へ着船。①②
城下本陣③へ休息。直ちに出立。此地より長崎迄は土地
田畑の間、大石堆(まじ)わり、小石、道路満ちて甚だ悪い。
雲仙の嶽、噴出せしによるか、西洋に云うアミ(溶岩)年を経
二十一日
会津に宿す。
二十三日
長崎着、日見峠、甚だ難所。
直ちに養行の御役宅へ行き面会。洋船未着の由を聞く。福澤寺

四月三日
鎮台へ行く。明日出立を話定す。
四日
長崎出立
矢上中食。見立の者彦次郎、安之丞用達。
筆者阿人。肥前藩杉谷応助、老侯の内命あり。
五日
島原着。③
六日
渡海。能本着。肥後侯より使者あり。

市街地拡大マップ

移転した
「中村家別当家」屋敷

3 城下本陣
「中村家別当」

2

